

『公文書ルネッサンス—新たな公文書館像を求めて』

公文書等の適切な管理、保存及び利用に関する懇談会 編
国立印刷局(2005年出版予定)

『本とコンピュータを結ぶ』

ジュリアン・ウォーナー著 高山正也 監訳 勁草書房[1999]

『情報』と現代社会(知の銀河系4)

筑波大学大学院図書館情報メディア研究科、日本図書館協会 編
日本図書館協会[2004]

たかやま・まさや アートドキュメンテーション研究会会長、NPO知的資源イニシアティブ代表理事等を兼務。1966年慶應義塾大学商学部卒、同大学大学院文学研究科図書館・情報学専攻博士課程単位取得退学。専攻は図書館経営論。2003年より内閣府公文書等の適切な管理・保存及び利用に関する懇談会座長。著書に『図書館経営論』樹村房[1997]等、翻訳に『図書館・情報サービスの理論』勁草書房[1990]等。

社会と歴史への発言権 の確保

—アーカイブズの整備

慶應義塾大学 文学部 教授

高山正也

「アーカイブズは社会の記憶の集合体であり、情報、知識、英知などの基本的な源であって、社会のDNAとも言える」とはカナダのウィルソン国立図書館公文書館長の言葉である。今日、わが国における構造改革の徹底した実行が単に経済面だけではなく、行政や社会さらには文化の各方面で、厳しく求められるようになってきている。日本の情報政策についても真の国民民主権の実現につながる政策形成過程の確立の観点から、基本的な見直しが必要とされる。そのためには大きく立ち遅れている公文書の管理を中心に、公文書館・アーカイブズの確立と充実が急務となっている。保存されるべき公文書とは政策実行の結果として生じる古紙ではなく、政策立案・実行のための貴重な情報資源として見直すという動きは諸外国とともにわが国でも急速に進んでいる。そこで政府は平成15年度から内閣府に識者による「研究会」、「懇談会」を設け、その実態の解明と対策を検討し、その報告書を平成16年6月にまとめた。その結果、わが国の国力に比しての公文書と公文書館の実態に極めて大きな不備のあることが明らかになった。この報告書と検討に用いられた資料類が政府刊行物『公文書ルネッサンス—新たな公文書館像を

求めて』(仮題)として公刊される。この資料はわが国で、現時点で入手できる公文書館のみならず、すべてのアーカイブズや情報資源問題に関する最も基礎的で、包括的な情報と、政策実行のための参考とすべき諸資料を網羅している。

内閣府の報告書においても最後に「デジタルアーカイブ」への早急な取り組みが提言されているが、電子政府を始めとする業務の電子化が社会全般で広がるとともに、デジタル記録を含む業務記録を新たな情報資源として見直す動きも世界的に広がっている。特にわが国では電子図書館論、デジタルアーカイブズ論において、ややもすれば技術的システム論に関心が集まり、コンテンツ、すなわちそこに収集・保存されるべき情報資源たる記録に寄せられる関心が薄い。わが国にはコンテンツが無いのだろうか。そうではない。世界に誇るべき文化である多くのコンテンツの存在がありながら、新たなシステムを考える際にコンテンツが抜け落ちる、または落とされる。そこで、今一度基本に立ち返り、コンテンツ、情報資源、文書・記録の関係を考えることが必要になる。「知」とは何か、「書くこと」と「記号」、「文献の知」と「コンピュータの知」について、ギリシャ時代から現代へ

と歴史的に考えることで、わが国の情報問題への取り組みが地に足のついたものとなる。この観点からJ・ウォーナー『本とコンピュータを結ぶ』はデジタル環境の下での知的情報資源を考える際の情報と記録について基礎的な考察をしている。

冒頭に示したように、カナダでは2003年より、図書館と公文書館が統合された。この変化の一要因として、記録のデジタル化が挙げられる。デジタル化した情報資源としては、図書館、文書館と並び博物館のコレクションも重要である。公文書館の充実を図るには図書館や博物館の充実も図り、その底辺を広げなければ公文書館の頂点は高まらない。これら、図書館、文書館、博物館を基礎におく検索系情報サービスの理論体系は、総合学としての図書館・情報学にまとめられている。しかし、わが国ではいまだその図書館学とか図書館・情報学の認知度は低い。図書館・情報学とその対象となる図書館もまた、わが国の国力に比して、立ち遅れていると言えるが、『情報』と現代社会』では情報資源の蓄積についての図書館の役割、学術情報資源、情報流通とサービスが、行政、産業、学術・研究などの多様な側面からの見方がコンパクトにまとめられている。

現代の国内外へ、そして後世への国力にふさわしい発言権を確保し、説明責任を果たすには公文書館の充実が急務である。公文書館整備という頂点を高めるには各種アーカイブズ、図書館、博物館等の情報諸資源の管理保存体制確立という底辺の拡大が必要不可欠になっている。 ■